

遊学俳句

吉谷夏洞選

優秀

蝓螂の枯れて聖者の貌となる

西山大之進(磯 壁)

(評) 蝓螂の斧や姿が珍しいことよく句にされている。さわると斧を立てて向かってくる愛らしいところもあるが、三角形の顔や頭がおそろしく見える。作者は枯れと言う言葉を見つけて句を引き立たせたのがよい。そこに作者の個性がよく出ている。また聖者の貌も面白さを増している。

冬支度猫の居場所も定まれり

堀 澄子(藤 山)

燦接の火花たぎ散る霜の朝

川瀬清津矢(下田西)

牡丹寺仁王門より順路の矢

木下 俊夫(穴 虫)

雨上り蛙稲田でラブソング

堺 薫(鎌 田)

木もれ陽に面影優し母似仏

小原眞智子(五位堂)

新能果て月に映ゆパイプ椅子

森岡 節子(西真美)

日の恵溜めし布団は母の膝

松田奈良一(関 屋)

後ずさり始めし嬰や芽木の彩

浜口 福子(関屋北)

終戦の肉親捜し終える冬

花瀬タツノ(磯 壁)

神山の峰に轟く滝しづき

厨子トミ子(上 中)

巡回す鷹になりたや山紅葉

近倉 利子(関屋北)

一人風呂柚子の良き香に長湯せり

高谷よしゑ(磯 壁)

菊花展賞なき花も美しき

田中 舒子(北今市)

どん栗の二つ落ちくる濁り秘湯

奥村 成子(関屋北)

(総評)

うっかりされたのか季語の抜けている句もあった。無季では俳句と云えない。読み直し抜けていないか、またその季語が句にふさわしいかどうか調べなければならぬ。季語をもっと大切にしましょう。毎回発行の遊学俳句もよい句が多くなってきた。俳句を楽しむ人が多くなってきたことは喜ばしいことである。

心うきうき里の太鼓の盆踊り

遊学短歌

二城しづ子選

優秀

空襲下手をとり逃れし学友より
金婚祝に届きしデンファレ

中島都思子(藤 山)

(評) 空襲を共に逃れた友人より届いた蘭の花。結婚後の五十年、というよりも戦後の幾山河をとにかくも生きぬいたという思いが、高貴でしかも華やかなデンファレに結集した。

伝統の技を消さじと寒渡に
翁は励む和紙一筋に

浜口 信子(良福寺)

久々に訪る母校は様変わり
老人集う憩いの館

山本トミ子(五位堂)

見上ぐれば月は静かに微笑めり
閉ざせし心おし開くこと

岡本 悦子(北今市)

元日の朝しづかにききわたり
初話の夫がおほらかな声を

吉田ヤチヨ(穴 虫)

華やける二〇〇〇年の新成人
日本の歴史は君たちの手に

大橋 喜好(西真美)

春兆す二上山の朝あけに
霧の奥より諸鳥の声

田中 操(逢 坂)

風冴えて午後四時の陽は柔らかに
尾花の穂先にきらめき憩ふ

中間 伸子(穴 虫)

己より大きな敵にザリガニは
はさみ構えて闘志をみせる

河村須賀子(畑)

嫁ぐ娘に素直に淋しと告げし夢
覚むればうそぶく我のプライド

田熊 禎子(真美ヶ丘)

書き残すべきものあるやと人間は
「生きた愛した歌を詠った」

内藤 典子(北今市)

志士たちの無念と偲ぶ明治墓所
日射し届かぬ谿間の奥まで

中田 篤志(良福寺)

竹の内街道行くに萬葉の
ミステリーロマンふむ風あり

堺 薫(鎌 田)

寒さやや和ぐかと見れば夕空に
安らぎ色の雲ひとつ見ゆ

島田 政子(北今市)

目覚めゆく朝の海面は金色に
輝き刻々時移りゆく

井上 菊子(北今市)

(総評) 浜口作に伝統を守る一徹の人を見、山本作には移り変わる世相の一端を見る。岡本作は下句に独自性があるが、総じて全般に素材にも表現にも常套的なものが多かった。また個人的すぎて真意の掴めぬ作もあり、惜しみつつ割愛した。

大切なるものを忘れて生き来たる
思ひふとたつ風の十字路

募集のお知らせ。

遊学俳句及び短歌では、ご投稿をお待ちしています。

自作未発表の作品に住所、氏名をご記入のうえ、葉書または封書で係までお寄せください。

一人三作品まで俳句、短歌を別々に応募してください。

◆締め切り/平成十三年四月末
◆宛て先/〒6339-0292

香芝市本町一三九七番地
香芝市役所 企画政策課

「香芝遊学」編集係

